

熱く、各地連総決起集会

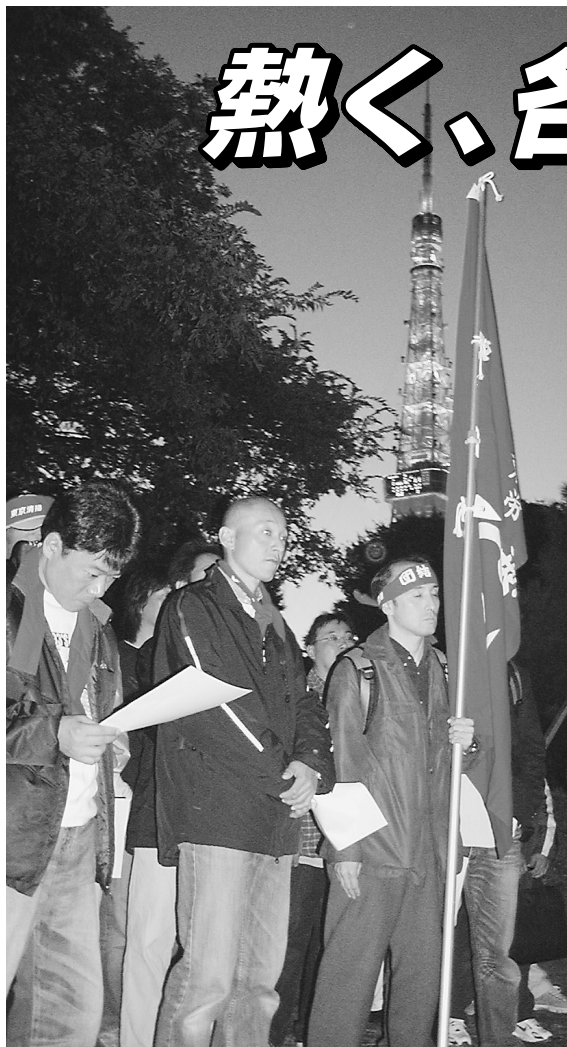
いよいよ最大の山場 07賃金確定闘争

07賃金確定闘争における第2波総決起集会として、11月8日の第五地連を皮切りに、9日に第三地連、12日には第二地連と第四地連、13日に第一地連の総決起集会がそれぞれ開催されました。集会は昨年と同様に、各ブロックの幹事区長区において開催することとし、わが組合からの要請行動も同時に行いました。

わが組合は、名実共に単組となったことから、昨年を引き続き、独自に賃金確定闘争を展開しています。人事委員会勧告が示されて以降、要求を突きつけた団体交渉をはじめ、小委員会交渉、専門委員会交渉において連日協議を積み重ねているところですが、当局が最も脅威と

感じるのは大衆行動による組合員の連帯と団結の力です。11月2日に文京シビックセンターで開催した総決起集会は、会場を埋め尽くす組合員の熱気で成功裏に行われたところですが、今回の各地連における総決起集会は、第2波としての位置づけで組合員の結集を求めたもので

今確定闘争も、最終段階に入りました。要求実現のため、組合員の総団結で闘い貫きましょう。



東京清掃労働組合
千代田区飯田橋3-9-3
TEL (3237) 9995
毎月5日15日25日発行 1部20円
編集責任者 長治
編集長 宣部
編集者 教木

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働者の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

第1地連 本部・地連・支部の一層強固な連携体制確立

11月13日(火)午後4時45分より、第一地連総決起集会をブロック幹事区長である港区長に対し、要請行動を行った。集会場所は、港区役所向かいにある、都立芝公園第6号地で開催された。当日は二割動員をかけたが、参加者は、当初1000名規模の予定だったが、最終的に119名の参加となり、組合員の関心の高さが伺えるものとなった。



集会は、瀬尾議長の挨拶で始まり、大和田賃金部長よりこの間の経過報告がされた。その後、金子副委員長、瀬尾議長を筆頭に、計7名の要請団を送り出した。要請を行っている間に、各支部より決意表明があり、今賃金闘争を全力で闘うとの強い決意を全体で確認した。工場支部より、アウトソーシングに対する決意と、各支部への協力要請があった。そして、要請団からの報告では、地連議長から1500筆を超える署名と、要請文を手渡し、更には工場からの要請、そして、強い意志を込めた副委員長からの要請に対し、対応した武井区長は皆さんの思いは十分に受け止めた。私も幹事区長として、ブロック内の区長に伝え、区長会などの場で、発言をしたいと思っています」との回答があったと、好感触の報告があった。その後、中村事務局長より決議案を読み

上げ、全体の拍手で確認した。最後に、議長より第一地連は今後も先頭に立って闘う意思表明をし、シュプレヒコール、団結カンパローで集会を終えた。前回に引き続き今回も、幹事区長に直接要請できたことが最大の成果だったと言える。地連として2度目の決起集会ではあったが、前回の反省点を見直してはきたが、今年9月より公園管理の都合で、マイク等の音響機器が使えず、肉声での報告、決意表明となってしまう、次回以降の課題を残した。区によって事情は違うが、その都度、集会の形式も変えて対応できる柔軟性を持ちたいと思った。そのため、本部、地連、支部の連携をより一層強固なものにしていきたい。

森田中執

第2地連 支部・地連・青年部より力強い決意表明を受ける

11月12日(月)17時30分より第二地連総決起集会が荒川区役所北庁舎3階会議室に於いて開催されました。集会参加者は、会議室自体が狭く100名程度を予定し、本部・地連役員・各支部参加者合計で99名でした。

金子副議長の司会により開会され、鈴木議長の挨拶に続き川内谷中執より経過報告がされました。

つぎに、各支部及び地連青年部より力強い決意表明を受け、会場の熱気は盛り上がりを見せました。

18時10分より当局側が入室し、当局側出席者は三嶋副区長を筆頭に藤田管理部長、猪狩職員課長の合計6名でした。地連より議長・副議長・事務局長を筆頭に、本部より大島書記長・野崎共闘部長の合計8名が要請団に入り要請を行いました。

まず、大島書記長よりこの間の経過を含めた要請を行い、次に植村副議長が要請書を読み上げさらに、青木北工場支部委員長よりアウトソーシングの撤回を求めました。

当局からは、「ただいま、皆様から要請書をいただきました。要請いただきました内容につきましては、今後区長会と清掃労組との間で協議を行っていくことになりました。本日、皆様からの要請につきましましては、持ち帰らして区長に伝え

ます。今後とも、誠意をもって課題の早期解決に向けて、話しあっていく所存ですので、よろしく願いいたします。」と回答を受けました。

要請団から「わかりました。役員区長である荒川区長の誠意ある対応をお願いいたします。」と返答をしました。当局退室後、野崎共闘部長より情勢を含めた経過報告がされ、松丸事務局長より集会決議(案)の採択を行い、力強い拍手のもと満場一致で採択されました。

最後に鈴木議長の団結カンパローで集会は、成功裏に終了しました。

横須賀中執



第3地連

西川委員長を先頭に
退職手当等の見直し撤回を求める



11月9日(金)午後4時30分より、品川区役所第三庁舎講堂において「07賃金

確定闘争勝利11・9東京清掃第三地連総決起集会」が開催されました。参加者は、西川本部委員長をはじめ地連役員・中央執行委員に各支部の参加者を合わせて約130名で行なわれました。

集会の司会は工藤地連事務局長が行ない、集会開催にあたり田中第三地連議長と西川委員長から07賃金確定闘争に勝利するため、地連や本部に結集して更に闘いを強めていく力強い挨拶がありました。

5時から要請を行なうため直ちに要請団を組み、要請に出発しました。要請団は西川委員長を団長に地連役員・中央執行委員・各支部代表者でした。

要請団に対する区側は本間副区長・田中総務部長・榎本人事課長・事務方2名が対応しました。

要請にあたり西川委員長から、これから行なう要請について組合員の切実な思いであり誠意ある対応を求め、田中地連議長・吉葉品川支部書記長・細貝大田工

場支部委員長の3名が要請を行いました。

地連議長からは現業の給料の削減をやめ直ちに業務職給料表を提示することや、退職手当の支給率の見直しについて撤回して諸要求に誠実に回答するよう求め、要請書と2577筆の家族署名を手渡ししました。次に、吉葉品川支部書記長からは品川区の清掃事業について、各戸収集

の成功は全組合員が区民に理解と協力を求め日々努力してきたからこそ出来たもので、今後の事業運営は直営を堅持し、新規採用を行なうことを要請しました。最後に細貝太田工場支部委員長から安全安心な清掃工場の運営を行なうため民間委託は止め、正規職員を確保することを強く求めました。

これに対し、本間副区長から要請に対するコメントとして、要請の内容は区長に伝えること、今日の清掃事業において清掃職員の奮闘に感謝していること、三位一体改革により各区の財政環境は厳しいこと、当面する諸課題は統一交渉の場で解決されると思っているが、早期解決が図られるよう働きかけること、各区の課題は十分協議を尽くすこと、などの回答がされました。

一方集会は要請団を送り出した後、大和田賃金部長から確定闘争のこの間の報告がされ、今度の取り組みの強化を意思統一しました。

その後は、要請団の報告を鈴木地連副議長から受け、シュプレヒコール、決議文の提案採択が行なわれ、最後に田中議長の音頭で団結がんばろーを三唱し、確定闘争勝利に向け更に団結して闘う決意を固め集会を終了しました。

松本中執

豊島区役所本庁舎4階第2委員会室において、午後4時30分から幹事区長要請が行われた。当局側は代理出席の水島副区長(副区長会会長)、小野総務部長、永田人事課長、組合側要請団は本部金子副委員長、嶋根第四地連議長、秋元板橋中執、松永練馬中執、吉田杉並総支部委員長、斉藤中野支部書記長、中田板橋総支部委員長、中島豊島支部組織部長、上村豊島工場副委員長、以上出席のもと要請を行った。

嶋根議長から水島副区長に要請書、署名手交後、上村副委員長から水島副区長に要請書を提出した。口火を切って代表として金子副委員長のあいさつから要請が行われた。嶋根議長の給与確定に関わる要請書の読み上げ、続いて上村副委員長からアウトソーシング見直し求める要請書を読み上げた。我々清掃労組の要請に対して水島副区長は「区長に申し伝えると共に、この間の清掃労組の要請には真摯に受け止める」とコメントした。

約20分間の要請であったが、皆緊張した面持ちであった。要請後、引き続き豊島清掃事務所2階会議室において、17時30分から一時間にわたって「第四地連07賃金確定闘争勝利総決起集会」を開催した。洞下中執司会のもと嶋根議長あいさつから始まり、要請団を代表として本部金子副委員長の報告と今後の課題、取り組みについて話がされた、続いて一組総支部を代表して箱田書記長から一組報告を受け、本部染書記次長から専門委員会報告を受けた。続いて第四地連青年部米脇議長の力強い決意表明受け、第四地連山口事務局長の集会決議文を読み上げ全体で確認をされた。



最後に嶋根議長の団結カンパローで集会を終えた。

今回の第四地連の要請署名は3000名を越える署名が集まり、又、決起集会には会場に入りきれないほどの235名の各支部の組合員が集結した。

賃金・人事制度に係わる改悪提案や一組当局的清掃工場の安全・安定的な操業を困難にさせる安易な委託攻撃は、到底認める事は出来ない。こうした状況の中結集した仲間の問題の意識の高さが伺えた、第四地連は本部のもとに集結し、団結をより固め要求実現のため闘い抜く強い決意を感じた決起集会であった。

秋元中執

第4地連

要請署名三〇〇〇筆を持ち
幹事区長要請を行う



第5地連

工場支部のアウトソーシング
「断固反対・撤回」を決意

11月8日(木)地連の先陣をきって、第五地連07賃金確定闘争勝利・総決起集会が区長会ブロック幹事区の江東区文化センターで11支部132名の参加で開催された。冒頭、村山議長より「わが組合は単組として確定闘争を闘っていること、地連段階での取り組みが極めて重要であり、今までの以上の団結力を持って大衆闘争が必要である。」と力強く述べた。続いて齊藤中執から要請行動について説明を受け、約3000筆にのぼる署名を携えて集会参加者の激励の拍手で、地連三役・各区1名・地連出身中執を江東区の石橋副区長の下に送り出した。

要請の間は会場では、木川教宣部長より今確定闘争の経過説明を受け、続いて一組より江東工場支部の内山委員長からアウトソーシングに関わり「断固反対・撤回を求む」等、強い意志であると報告された。そのあと各区からの決意表明となり、どの区からも「清掃職場の実態をかえりみない、われわれと家族の生活・権利を脅かす重大な内容であり、断じて認めることは出来ない、われわれは納得できるまで闘う」等の決意が述べられた。

副区長要請では、冒頭当局より腕章や鉢巻にふれられたが、西川委員長は「腕章は服に縫い付けてあるため取れない、これらには全組合員の魂が込められている」と返し、闘う強い姿勢を見せた。続いて村山議長より約3000筆の組合員・家族の怒りを込めた署名と要請書を石橋副区長に手渡しして要請した。その後、収集・運転職場代表として墨田支部の山崎委員長が要請、さらには工場支部代表で中里江戸川工場支部書記長からアウトソ

賃金確定闘争勝利総決起集会

東京清掃労働組合 第五地連

